

平成 23 年度 八尾市自立支援協議会 支援部会 活動報告

(1) 就労・日中活動支援部会

★構成員：生活介護事業所・訓練等給付事業所・地域活動支援センター

第1回 平成 23 年 9 月 5 日（参加者：10 名）

- 研修会

『障がい者の労働と支援の課題 ～利用者の立場から「働く」ことを考える～』

講師：大学教授

- 地域課題について意見交換

<議論内容・課題等>

- ・ 労働の権利についての講義
- ・ 世話役よりサブ協議会の報告があり、各支援部会で出されている地域課題を集約することについて説明（次回に意見交換を行う）

第2回 平成 23 年 12 月 12 日（参加者：13 名）

- 障がい者の労働と支援の課題について意見交換

講師：大学教授

- 地域課題の整理

<議論内容・課題等>

- ・ 就労意欲を育てることの大切さや事業所によって就労への意識の差があることなどを確認できた。
- ・ 日中事業所の不足、医療的ケアが必要な方への日中支援の看護体制や設備が不十分であること、販売先の不足などが確認されるとともに、就労移行事業、生活訓練等有期限事業に対する意見などが出された。

(2) 地域生活支援部会

★構成員：居宅介護事業所

第1回 平成23年6月23日（参加者：10名）

- 各事業所の現状報告
- 事例検討

＜検討内容・課題等＞

事例検討 『統合失調症の方の自立支援について』

- ・ 自宅で母親と二人暮らし。現状では特に問題はないが、今後本人の自立をどう促していくかという点について意見交換を行った。
- ・ このケースでは、関係機関を含めた周りの方々を巻き込んだチームケアの下、生活の中で、本人に何かの役割を持って頂くよう支援する方向となった。
- ・ 本人の力を客観的に見極めることの大切さや1事業所だけの支援では限界があることを確認した。

第2回 平成24年2月28日（参加者：18名）

- 世話役交代・部会の方向性の確認
- 研修会

＜検討内容・課題等＞

研修会 テーマ：『高次脳機能障がいについて』

【講師】大阪府立障がい者自立センター

- ・ 高次脳機能障がいにおける、障がい特性（記憶障がい・注意障がい・遂行機能障がい・社会的行動障がい）に合わせた対応の仕方など、ヘルパー等の支援においても、日常的に取り入れることができるものばかりであった。
- ・ また、グループに分かれて事例検討を行うなど、参加者それぞれが主体的に取り組み、時間が限られている中でも活発な意見交換ができた。

(3) 入所・グループホーム・ケアホーム支援部会

★ 構成員：施設入所支援、共同生活援助（GH）、共同生活介護（CH）事業所

第1回 平成23年5月27日（参加者：8名）

- 各事業所の現状報告
- 事例検討 のびやか生活応援センター・信貴福祉会

＜議論内容・課題等＞

- ・（事例検討）てんかん発作や擬似発作の疑いのある方への対応について意見交換を行った。
- ・ 各事業所での金銭管理について、次回より情報交換を行うこととした。

※参加者付属の施設内で実施し、会議終了後施設を見学

第2回 平成23年8月4日（参加者：6名）

- 各事業所の現状報告
- 事例検討 四季の森グループホーム支援センター
- 今後の活動について

＜議論内容・課題等＞

- ・ 各事業所での金銭管理、体重の管理などについて情報交換を行った。
- ・ 事例検討の中でアピール行動のある方への対応について意見交換を行った。
- ・ 世話役よりサブ協議会の報告があり、各支援部会で出されている地域課題を集約することについて説明（次回に意見交換を行う）

第3回 平成23年11月2日（参加者：6名）

- 各事業所の現状報告
- 事例検討 愛光園
- 地域課題について意見交換

＜議論内容・課題等＞

- ・ （事例検討）問題行動のある方への対応について意見交換
- ・ 通院時の付き添いや夜間の緊急時の対応など、人的・制度的に不十分であること、短期入所施設が不足している現状などを確認するとともに、成年後見制度や日常生活自立支援事業の活用などについて意見交換を行った。
- ・ 世話人研修の企画の提案があり、今後部会での具体的な検討を行う。

(4) 障がい児支援部会報告

★構成員：保健所、（府立・市立）支援学校、障がい児通園児施設、児童デイサービス事業所、居宅介護事業所、日中一時支援事業所

第1回 平成23年5月20日（参加者：11名）

- サブ協議会および本会議の報告、年度内の開催予定の確認
- 現状報告・情報共有
- ＜議論内容・課題等＞
 - ・ 高等部の進路先として八尾市内での受け皿がない。近隣他市の事業所を利用するケースの方が多い現状。中学部などの保護者からも進路先の不安の声が大きい。
 - ・ 医療行為が必要なケースが増えており、1事業所では対応が限界になっている。

第2回 平成23年7月8日（参加者：12名）

- 新規事業所（児童デイサービス）に関する報告
- サポートブックの検討
- 現状報告・情報共有
- ＜議論内容・課題等＞
 - ・ サポートブックの運用には教育・保育・医療などの協力が必要。
 - ・ 手帳交付されない児童は制度利用できず、特に卒業後の進路が決まらない。
 - ・ 3.6歳児健診で発見された発達障がい児を、療育につなげる仕組みづくり
 - ・ 平成24年度の法改正（障害者自立支援法・児童福祉法）に関する勉強会がしたい

第3回 平成23年10月21日（参加者：12名）

- サブ協議会及びサポートブックの検討状況の報告
- 障害者自立支援法・児童福祉法等改正に関する情報提供
- 地域課題の検討
- ＜議論内容・課題等＞
 - ・ 市内に児童の短期入所施設が1ヶ所しかなく、緊急時には利用できないケースが多い
 - ・ 成長と共に家族介護での入浴が限界になってくる身体障がい・重複障がい児への入浴支援

第4回 平成23年12月13日（参加者：10名）

- 障がい者施策推進協議会への意見提出等について報告
- 事業所紹介・事例報告
- ＜議論内容・課題等＞
 - ・ 支援部会のネットワークを活かし、支援が改善されてきた重症心身障がい児の報告がされた。同時に15年間引きこもりの支援例も紹介され、不登校の初期段階で連携した支援ができれば現状は変わっていた可能性もあり、連携支援の大切さを確認した。